

阿智村事務事業評価シート

事務事業名	公民館主要事業(社会教育研究集会)	担当者	教育委員会	社会教育係
-------	-------------------	-----	-------	-------

①事務事業の概要

総合計画での位置づけ	1. 個性を尊重し、心豊かな人生を送れる村／教育文化の向上／社会教育の充実・社会教育の振興			
関連する主な計画等	教育振興基本計画			
根拠法	教育基本法、社会教育法			
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 補助金交付	<input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他
事業の対象者	全村民			
事業開始年	1967年度	<input type="checkbox"/> 時期不明	事業の終期	<input checked="" type="checkbox"/> 終期末定

②事務事業の計画(PPLAN)、取組(DO)

実施目的	社会教育活動の一年間の集大成として、村民が村の課題を考え合う					
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・準備会1回 ・実行委員会4回 ・分科会運営委員会のべ11回 ・社教研当日 <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム「若者の視点から考える阿智村の暮らし、しごと、つながり」 登壇者4人 コーディネーター1人 ・分科会「福祉」「子育て」「健康」「平和」「しごと」「地域文化」「人口維持」 助言者4人 ・意見発表 小中高生各1人 					
実績・効果	<p>本集会では各団体の実施する活動や参加者が問題意識を持ち寄り、共有することができている。実行委員が少なく進行が難しい分科会もあったが、集会の準備段階から課題を出し合い、話し合うことができた。</p> <p>今回は関心の高かった「若者」にテーマをしぼった。シンポジウムにおいては村内在住の4人の20代若者に登壇してもらい、阿智村での暮らしや感じていることを話してもらった。人口減少が課題となる中で、若い人が住み続けられる地域について考えることができた。</p> <p>当日の参加者は午前・午後各約150人であった。</p>					
歳出の内訳(千円)	項目	金額	項目	金額	項目	金額
	謝礼	242				
	託児賃金	8				
事業コスト	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	実績額(千円)	158	271	250	880	880
	うち一般財源	158	271	250	880	880
	うち補助金					
	うち個人負担					
	従事職員(人)	正規職員 3 臨時職員 1	3 1	3 1	3 1	3 1

③評価(CHECK)

区分	個別判定	判定理由	総合判定	
必要性	住民のニーズは高いか	a	本集会が大切だと考える村民が一定いる	A
	手段、成果は妥当か	a	一年間の様々な活動を持ち寄る場として有効	
	対象者の設定は妥当か	a	誰もが参加できることが重要。	
	村の関与は妥当か	a	村民の学習の場を公的に保障することは重要	
有効性	期待された効果が得られたか	様々な課題を共有し考え合うことが一連の取り組みで一定できた	A	
効率性	コストの削減に努めたか	a	謝礼については一定の基準を設けるなど、経費は必要最小限となるよう努めた。	B
	効率性を高める工夫はされたか	b	集会後の取り組みをつくりだす工夫が弱かった	
公平性	受益者負担は適切か	受益者負担なく、全ての村民の参加を保障することが公平と考える	A	
総合評価	B			

④改善(ACTION)

事業の方向性	継続・維持
課題	社教研を知らない村民も多く、参加を拡げていくことが必要。そのためには潜在的な課題や要求の掘り起こしが必要。日常的な社会教育の取り組みをより豊かに発展させることが課題。
今後の取り組み	集会の準備過程において参加者が主体的に地域の課題を考える場をつくることを重視する。また集会終了後、参加者が主体的に活動に取り組むような盛り上がりをもみんなでつくりたい。